

## 従来型事業（サービス購入型）に関する論点について（案）

		VFMに関するもの	リスク分担に関するもの
従来型 (サービス 購入型)		支払額削減以外の VFMについて	リスクを明確に認識する ためのリスクワーク ショップ等の手段について
		VFMが果たすべき 役割について	
新たな事業 類型	収益施設 併設型	新たな事業類型における VFM評価のあり方について	本体事業と付帯事業との 間のリスク遮断について
	運営権 活用型	(現時点で既往事例が存在しないため、 空港等の先行事例の動向を見据えつつ対応)	

## (1) 支払額削減以外のVFMについて

- ・ VFM構成要素である「支払」と「サービスの価値」のうち、主に「サービスの価値」に該当する部分の重要性を認識し、以下に関連する考え方等についての検討を想定（資料3-1、資料3-2）

## ① リスク調整費について（資料3-1）

- 財政支出のばらつき抑制という見地からのリスク移転効果をいかに認識すべきか。

## ② 民間提案によるサービス水準の向上について

- 財政支出削減効果以外の効果として、社会的便益・外部効果をいかに認識し、活用するか。特にインフラを対象とするPFI事業におけるサービス価値の向上に関する事例を提供するとともに、外部効果の認識を深めるこ

とを期待してはどうか。

③ 先行事例におけるVFMについて（資料3-1）

- 可視化されていないVFMについて、その一部を何らかの方法で定量化することは有効であるか。

（2）VFMが果たすべき役割について

- ・ VFMが果たすべき役割を明確にしたうえで事業プロセスの各段階におけるVFMの評価目的やそのあり方等を認識し、以下に関連する考え方等についての検討を想定（資料4-1、資料4-2、資料4-3）

① VFMの活用状況について（資料4-2）

- これまでのPFI事業において、VFMはどのように活用されてきたか。

② 段階別のVFM評価の実施目的、あり方等について（資料4-3）

- 上記①を踏まえ、事業計画段階、特定事業評価段階及び事業者選定段階におけるVFMの評価目的やそのあり方等をいかに設定するか。

（3）リスクを明確に認識するためのリスクワークショップ等の手段について

- ・ 国内外におけるリスクワークショップの実態等を通じて、以下に関連する考え方等についての検討を想定（資料5-1、資料5-2、資料5-3、資料5-4）

- ①リスクワークショップの実施段階について（資料5-2）
- リスクワークショップはPFI事業推進の各段階に応じた実施も想定されるが、段階毎の実施目的をどう設定するか。また、段階毎の実施において留意事項はないか。
- ②リスクワークショップの対象事業について（資料5-3）
- 国内外の実態等を踏まえ、我が国においてはどのような事業が対象となり得るか。
- ③リスクワークショップの構成メンバーについて（資料5-4）
- リスクワークショップを有意義なものとするための構成メンバーをどう設定するか。また、最大限の効果を発現するためにアドバイザーにはいかなる役割が期待されるか。